（様式１－１）

令和６年度　学校評価報告書

大牟田市立白光中学校　　ＮＯ１

学校教育目標	自ら学び、認め合い、ねばり強く取り組む子どもの育成	重点目標	進んで自己表現できる子どもの育成

評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画
	重点目標	目標達成のための方策（取組指標）	成果指標	評価	結　果（成果○と課題△）	評価	コ　メ　ン　ト	次年度における改善策（案）
重点目標に対する評価	人間関係力の向上	◇道徳教育の充実 「ありがとうの日」メルシーアーチ 【重点項目】B「思いやり、感謝」「相互理解、寛容」 C「社会参画、寛容」	〔学校生活保護者アンケート〕 自他の気持ちや思いを理解し、他者の立場を尊重した行動をとることができる　⇒3.0 以上	4	○「ありがとうの日」の取組は生徒会を中心に生徒全員の思いや気持ちを季節感のあるボードに作成し、掲示した。 ○全校集会や学級での「礼を正し 場を清め 時を守る」についての指導や朝のあいさつ指導により、保護者からの評価は高かった。 ○行事アンケートでは体育会で１００％、音楽発表会で９５％の生徒が充実感や達成感を味わったと回答した。 ○ＳＳＷＳＶの指導の下、ＳＣやＳＳＷの協力を得て、ＳＳＴの授業を行い、非認知能力の向上が見られた。 ○道徳の時間の充実により、小集団、学級集団の中で自分の気持ちや思いを表現する機会が増加した。	A	・学校の自己評価は適切である。 ・「ありがとうの日」のメルシーアーチはとても良い企画だったと思います。 ・いつも挨拶をしてくれて気持ちいいですね。 ・体育会の全員リレーは各々の活動場があり、よかったのではないでしょうか。 ・気持ちのよい挨拶をしてくださる生徒さんをよく見かけます。 ・体育会や音楽発表会では生徒さんたちが一丸となって取り組み、先生方も生徒さんたちに頑張りをフィードバックされている様子が見られました。 ・ＳＳＴの授業をきっかけにその要素を日頃の学級運営に取り入れられたことで成果につながったように思います。	・令和６年度、ＳＳＷＳＶの指導の下、ＳＣやＳＳＷの協力を得て、ＳＳＴの授業を進め、非認知能力の向上が見られた。次年度も継承しつつ、研究主題を「誰もが安心できる学校づくり、副主題を対話の場による言語活動を通して」と設定し、コミュニケーションスキルを高め、互いの考えを伝え合い、自らの考えを発展させ表現できる生徒の育成をねらう。これにより、人間関係力の向上をねらう。 ・生徒会活動の充実により、充実感や達成感の向上にむけて取り組む。
		◇基本的な生活習慣を身に付けるために、気持ちのよい挨拶と返事ができるようにする。	〔学校生活保護者アンケート〕 礼儀正しく、気持ちのよい挨拶と返事ができ、場に応じた言葉遣いをしている。⇒3.0 以上	4		A		
		◇授業や行事で子供の出番や役割を全員に作り、振り返り頑張ったことを認める指導をする。	〔行事アンケート〕 「充実感や達成感を味わえた」80％以上	4		A		
		◇子ども一人一人の良さを価値づけし、他者受容できる体験の場を設定し、自己存在感を高める。	〔学校生活保護者アンケート〕 自分には良いところがある⇒3.0 以上	4		A		
		◇自ら進んで自己表現する生徒を育成する学年・学級指導を行う。	〔学校生活保護者アンケート〕 自分の気持ちや思いを言葉で表現することができる ⇒3.0 以上	4		A		
	確かな学力の向上	◇生徒が授業の見通しをもつ「めあて」と「まとめ」の整合性をはかり、振り返りの時間を確保する。	〔授業チェックリスト〕 めあてを理解して授業を受けている生徒 ⇒3.0 以上	4	○主体的・対話的で深い学びを実現するために、生徒が見通しを持って学習に取り組めるよう授業改善に取り組んでいる。 ○読む活動を設定し、思考の時間を確保すること、主体的に取り組むことができるようになっている。 ○めあてとまとめのある授業を行うことで、自分のことばで振り返りを書くことができるようになっている。 ○小中交流会（三校合同研修会）での学力向上に向けた取組や生徒指導の内容を確認することで、９年間で学習を進めることが基本的な生活習慣の確立につながっている。 ○ＳＮＳの利用の仕方についてＰＴＡ活動と連携し、フィードバックを行うことで、家庭でのスマートフォンの使い方やルール作りに役立っている。 ○総合ＤＡＹを設定し、ＥＳＤ教育を推進する中で体験的な学習活動を展開することができた。	A	・学校の自己評価は適切である。 ・授業参観をさせていただき、その時の生徒の様子や教室、廊下の雰囲気を見ても分かりますがとても落ち着いている様子が見られ、結果として表れていることと思います。先生方のご指導の賜物と思います。引き続きよろしくお願いします。 ・めあてとまとめの時間をとられ生徒が主体的になれるよう、分かりやすい授業をされていると思います。 テストの時だけでも 70%が携帯を使用しないことを守れているのはいいことでしょうね。 ・全体的に授業に熱心に取り組まれている生徒さんが多かったように思います。 ・授業参観でも落ち着いて話を聞いている姿が見られました。小学校では「学び合い」形式の授業に取り組んでいるので中学校の授業形態とつながりを意識して、小中で連携して９年間を見据えて取り組んでいく必要があると思いました。	・小中連携推進会議を受け、小中一貫した学力向上の取組を焦点化し、共通理解のもと実践する。 ・生徒が見通しを持って授業に臨み、意見交流などの対話の場を活性化できるように、ソーシャルスキルトレーニングを意識した教師の声かけを徹底する。 ・ＰＴＡ活動と連携を深め、スマートフォンの使用に関する家庭でのルール作りについて確認し、定期考査前の一週間を勉強以外には使わないことを目標にフィードバックを行いながら定着を図る。 ・体験活動を推進する中で、育てたい資質能力を明確にし、自他を大切にする心情を育成する。
		◇授業の中で、学習課題をよく読み、理解して課題に取り組むような時間をつくる。（「読解力」の向上）	〔授業チェックリスト〕 学習課題をよく読み、理解して取り組んでいる。⇒3.0 以上	4		A		
		◇授業の途中や最後に習った事を振り返りまとめる時間をとる。（情報の取り出し⇒まとめ⇒創り出す）	〔授業チェックリスト〕 授業の途中や最後に今日習った事を振り返りまとめている。⇒3.0 以上	4		A		
		◇学力定着につながる学習規律の徹底、生活習慣の指導を行う。 学習以外で使う携帯の時間を減らす。	〔学校生活保護者アンケート〕 チャイム席や正しい姿勢、発表の仕方、聴き方を守っている，早寝・朝食の摂取⇒3.0 以上 〔家庭教育宣言〕定期テスト前一週間は、午後9時以降、携帯を使用しない。70%以上	4		A		
		◇「ひと・もの・こと」のつながりを意識した体験活動を実施する。	〔学校生活保護者アンケート〕 学校では色々な体験活動が行われている⇒3.0 以上	4		A		
	健康・体力の向上	◇補強運動や体幹運動を取り入れ新体力テストの記録向上を図る。	新体力テストの結果が全国平均を超える。	2	△全体的に平均に届いていない、要因として体力の二極化が進んでいることが考えられる。 ○毎月の「保健だより」や健康観察の徹底や薬物乱用防止教室、性教育等の健康教育を計画的に実施できた。	A	・学校の自己評価は適切である。 ・生徒会を中心とした取組ができているようです。 ・保健だよりや掲示物、薬物乱用防止教室など、健康に関する情報に触れる機会を積極的に提供されていた。	・新体力テストの項目の中から重点項目を決めて、授業の中で継続的な体力作りに取り組む。
		◇生徒会の保健委員会を中心とした健康や体づくりに関する保健学習を実施する。	保健委員会による計画的な健康や体づくりの保健学習の実施 ⇒ 学期１回実施	4		A		
いじめ防止	いじめを「しない、させない、みのがさない」指導体制の機能化	◇いじめアンケートの結果をもとに、担任・学年・生徒指導部を中心に早期発見・早期対応に努める。	〔いじめアンケート〕 いじめ、不安の訴えへの対応⇒100％	4	○記名・無記名のアンケートで実態把握に努め、生徒の情報交換で、小さな気づきも逃さないようにしている。 ○いじめ防止対策委員会は生徒指導委員会、教育相談部会で情報共有し、年に３回ＳＣ、ＳＳＷと対策を講じている。 ○福岡アクション３をもとに支援を行い、良好な人間関係の構築を図っている。	A	・学校の自己評価は適切である。 ・生徒指導委員会・教育相談部会を活用し、定期的に生徒さんの情報共有の場があり、状況把握がしやすかったように思います。 ・先生や友達に会うのが楽しみだと思えることは、素晴らしいと思います。行事等で生活が充実している。	・生徒指導委員会や教育相談部会での情報共有にとどまることなく、ＳＣやＳＳＷなどの専門家の意見を取り入れながら、積極的な取組を協議し実践していく。 ・福岡アクション３をもとに更に支援の徹底をはかる。
		◇いじめ対策委員会を毎月１回開催し、情報の共有を徹底し、関係機関と連携し素早い支援・指導を行う。	対策委員会の実施、支援の実施、防止対策防止⇒実績評価	4		A		
		◇積極的生徒指導を行い、日常的な相談体制を確立する。	〔学校生活保護者アンケート〕 先生や友だちに会うのが楽しみである⇒3.0 以上	4		A		
不登校対策	不登校生徒の個に応じた支援体制の推進と望ましい人間関係づくりと集団づくり	◇生徒指導委員会と教育相談部会を情報共有の場とし、組織的な対応を進める。	〔学校生活保護者アンケート〕 学校で勉強することは楽しい。⇒3.0 以上 先生や友だちに会うのが楽しみである⇒3.0 以上	4	○生徒指導委員会と教育相談部会で安心安全な学校を目指して取り組むことで、落ち着いて学習する環境や良好な人間関係を作っていると考えられる。 ○チームサポート方式の浸透と福岡アクション３の実践で生徒の変化に対応した支援を講じている。 ○チームサポートの学年別支援計画を立て、ＳＣやＳＳＷなどの専門家との連携による効果的な指導を行っている。	A	・学校の自己評価は適切である。 ・ハートフルルームでの生活が充実しているのではないかと思います。次第に生徒同士がつながり、人間関係が作れるといいなと思います。 ・専門家とも連携が取られ、効果があるようです。 ・生徒指導委員会・教育相談部会で不登校生徒に関する情報共有が定期的にされている。	・ハートフルルームへの職員の関わりを密にし、ＳＣやＳＳＷなどの専門家の意見を取り入れながら、完全不登校の数を減らしていき、生徒の状況を少しでも改善させていく。 ・ソーシャルスキルトレーニングを実践し、人間関係力の向上を図る。
		◇学年で協働してマンツーマン方式・福岡アクション3を徹底的に行い早期発見・早期対応を図る。	〔学校生活保護者アンケート〕 先生は、朝、教室で出迎えてくれる。⇒3.0 以上	3		A		
		◇不登校及び傾向の生徒に対し、SC や SSW との連携を強化する。	不登校対応記録を残し、継続的で効果的な指導を行う。	3		A		
働き方改革	市の働き方改革取組指針にそった働き方改革の取組の実施	◇ワークライフバランスを考え、効率の良いタイムマネジメントを行う。	1ヶ月の時間外勤務等が 45 時間を越えない。	3	○教員のウェルビーイングが改善されることで、働き方改革も進み、生徒のウェルビーイングも改善されると考えられる。 △市内の中学校では超過勤務時間は少ないが、前年比では増加している。 ○部活動休養日や提示退校日の取組は、職員と生徒の休息に有効である。	A	・学校の自己評価は適切である。 ・ウェルビーイング大切ですね。目標達成できるよう取り組んでください。 ・若い先生方が多いと、どうしても退校時間が遅くなってしまいます。ただ、「やりがい」を持って業務をされているのではないかと思いました。	・教職員の負担軽減のため部活動指導員の配置を進める。 ・計画的に年次休暇等を取得しやすい環境作りを行う。 ・管理職が中心となって、負担軽減や時間短縮に繋がる意識改革や取組を提案する。
		◇会議や行事等の精選、縮減及び効率的な運営をする。	超過勤務時間、前年比（令和5年度） 同月比減を目標とする。	2		A		
		◇部活動休養日、学校定時退校日の設定をする。	週2回の部活動休養日、学校定時退校日の実施	4		A		

◇　評価について　【自　己　評　価】　４：目標達成（９０％以上）　３：ほぼ達成（７０％～９０％）　２：もう少し（６０％～７０％）　１：できていない（６０％未満）

【学校関係者評価】　Ａ：自己評価は適切である　Ｂ：自己評価は上方修正すべきである　Ｃ：自己評価は下方修正すべきである